

《各学年の特徴》

- 5年 初めての家庭科の学習に対して、積極的に取り組む児童が多い。調理や裁縫の実習に関しては、実習計画を立てて取り組み、各自のめあてが明確になっていた。包丁の持ち方や食材の切り方、裁縫道具の使い方などの基礎的・基本的な技能を習得しようと積極的に取り組むことができた。また、家庭で簡単な調理や裁縫に取り組むなど、生活に生かしていく姿が見られた。その一方で、実習の時間を十分に確保できなかったため、技能が定着していない児童もいる。
- 6年 日常生活に関係している教科であることから、単元の内容によっては、身近に感じられ取り組みやすい活動も多い。その一方で、日頃から習い事等で家事に関わるのが少なく、初めて学習する児童が多いのも現状である。ミシン縫いや手縫いする活動では、技能面で個人差がある。調理実習や実技学習（手縫い、ミシン）では、夢中になって活動し、児童の意欲が高い教科である。

育てたい力（課題）

- 5年 生活経験から問題を見出し、課題を設定する力。
目的に応じた方法を考え、改善していける力。
- 6年 生活経験から問題を見出し、課題を設定する力。
生活をよりよくするために、学んだことを生かしたり、
創意工夫したりする力。

☆授業改善の具体策☆

- ・学習環境の整備
- ・学習形態の工夫（個→全体→個の学び合い）
- ・家庭との連携
- ・ICT機器の活用
- ・日常生活との関連化
- ・ホワイトボードの活用

《知識及び技能》

- 5年 裁縫やミシンの実習では、ICT機器を活用して手順を示していく。実習による体験的な活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる。
- 6年 5年で習得した知識を活用しながら、日常生活との関連を意識させていく。学習活動で学んだことについて、学校生活や家庭生活に生かす場面を設定する。

《思考力・判断力・表現力等》

- 5年 児童が生活の中で問題を見出し、課題解決に向かって取り組めるように、必要感をもたせられる課題を設定する。多様な解決方法を考えられるよう、学習形態を工夫する。
- 6年 自分の生活経験と関連付け、日常生活の中から問題を見出ししていく。学習形態の工夫（個→全体→個の学び合い）を行う中で、自分の考えを分かりやすく伝えたり、計画・評価・改善を行ったりして、よりよい方法を判断し、決定できる機会を設定する。

《学びに向かう力》

- 5年 家庭生活への関心を高め、生活をよりよくしていくために、衣食住を中心とした生活の大切さを実感できるように、家庭と連携し、授業で学んだことを生活に生かしていける場を設定する。
- 6年 家庭生活をよりよくしていく視点で、生活の中から様々な課題を明確にする。家族や地域の人々との関わりを大切にする心情を育み、生活をよりよくしようと工夫する実践的な力を付けられる機会を確保する。